

## ISSUE 10: 要約版 手袋に起因するアレルギーへの革新的な対応策

### 天然ゴムラテックスアレルギー

#### - I 型アレルギー: IgE 依存性

即時型 - 曝露数分後に反応が生じます。ラテックスタンパク質との接触により引き起こされます。通常アレルギー専門医による皮膚プリックテスト(30分未満)や特異的 IgE 抗体血清検査で診断されます。

### アレルギー性接触皮膚炎 (ACD)

#### - IV 型アレルギー: T 細胞介在型

すぐに反応が生じない遅延型過敏症です。原因は特定の化学物質残留物への曝露です。通常皮膚科医によるパッチテスト(5日間以上)で診断されます。

### 刺激性接触皮膚炎 (ICD)

#### - アレルギー性ではない

これは、皮膚に影響を及ぼす状態ですが、アレルギーではありません。一般的な原因には、湿潤環境での仕事や手指衛生、手袋の使用が含まれます。



皮膚プリックテスト



パッチテスト

#### 参考文献

- Higgins C, Palmer A, Cahill J, Nixon R. Occupational skin disease among Australian healthcare workers; a retrospective analysis from an occupational dermatology clinic, 1993-2014. 2016;75(4):213-22.

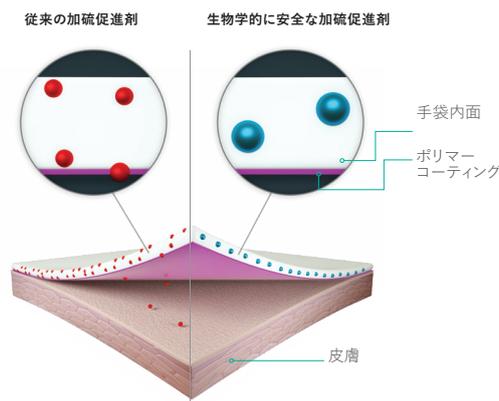
### 医療従事者における職業性皮膚疾患の診断 (Higgins ら<sup>1</sup> による文献から抜粋した表に変更を加えています)

診断	職業性皮膚疾患の医療従事者 (N = 555) n(%)*
刺激性接触皮膚炎	439 (79.1)
アレルギー性接触皮膚炎	276 (49.7)
天然ゴムラテックスアレルギー	72 (13.0)
接触蕁麻疹 (ラテックスアレルギーを除く) / タンパク 質接触皮膚炎	21 (3.8)
皮膚描記症 / 蕁麻疹	9 (1.6)
その他 (例: 内因性湿疹、乾癬、その他の炎症 性皮膚疾患、職業性皮膚炎の職場以外でも慢 性的に持続する皮膚炎、皮膚感染症)	248 (44.7)
総診断症例数*	1,068

\*注記: 患者は複数の診断を受けている場合があります

### 新しいテクノロジー

医療従事者が天然ゴムラテックス製手袋から合成ゴム製手袋へ切り替えていることに伴い、ゴム加硫促進剤がアレルギー性接触皮膚炎を引き起こす最も一般的なアレルゲンのひとつになっています。この事態を受け、大手手袋製造メーカーは、アレルギーのリスクを軽減するため、手袋の配合の改良に取り組んでいます。リスクを軽減するため、残留物が残らない、もしくは手袋を透過する残留物を低減する、生物学的に安全な加硫促進剤が使用されています。



手袋内部に留まらない可能性のある従来の加硫促進剤とは異なり、生物学的に安全な加硫促進剤は、製造過程で完全に消失するか、手袋のフィルム内膜に留まることで知られています。

慢性的な皮膚炎の場合、皮膚科の診断を受けることが例外なく重要となります。詳細な問診とパッチテストを受ければ、そのアレルギーを引き起こしているアレルゲンを避けることができるようになります。以降は適切な治療と回避が可能になります。

このトピックに関する詳細は、最新の臨床情報をお届けする『InTouch』の第 10 号「手袋に起因するアレルギーへの革新的な対応策: 最新の皮膚科学研究のレビュー」をご覧ください。